

決算の特徴

平成29年度における歳入歳出差引額は12.9億円の黒字となりました。

歳入は、市税が、法人市民税や固定資産税の増などにより2.5億円増加したものの、地方交付税が2.5億円、国・県支出金が1.3億円、市債が1.9億円減少したことなどにより、歳入規模は前年度と比べ7.4億円減の273.4億円となりました。

歳出は、公債費や消防費をあわせて1.3億円の増があったものの、退職者数の減少による退職手当の減や国民健康保険事業費特別会計への繰出金の減、総合公園多目的グラウンド整備事業や秩父鉄道新駅整備事業の終了などにより、総務費や民生費、土木費をあわせて8.6億円の減となっており、歳出規模は前年度と比べ7.4億円減の260.5億円となりました。

なお、歳入歳出差引額から、翌年度に繰り越す事業の財源と前年度からの繰越額を除いた単年度の収支についても0.6億円の黒字となっています。

平成29年度に取り組んだ主な事業

◆ 民生費

〈前年度比2億8,593万円(2.7%)の減少〉

- 障害者自立支援給付事業 13億3,235万円
- 子ども医療費支給事業 2億2,310万円
- 放課後児童対策事業 1億6,983万円
- 児童手当等支給事業 14億8,538万円
- 生活保護事業 14億4,683万円

◆ 教育費

〈前年度比832万円(0.2%)の増加〉

- 幼稚園就園奨励事業 1億3,002万円
- 少人数学級編制事業 1億1,293万円
- 英語教育推進事業 5,015万円
- 小中学校トイレ改修事業 3億942万円
- 小中学校屋内運動場非構造部材耐震改修事業 1億2,749万円
- 街なかにぎわい創出事業 1億1,524万円

◆ 土木費

〈前年度比2,619万円(0.8%)の減少〉

- 道路新設改良・維持事業 5億9,053万円
- 橋りょう新設改良・維持補修事業 6,690万円
- 河川等改修・維持管理事業 3億8,861万円
- JR行田駅前広場周辺再整備事業 3,320万円

◆ 総務費

〈前年度比5億4,786万円(17.2%)の減少〉

- 子育て世帯定住促進事業 4,271万円
- ふるさと納税促進事業 2,701万円
- 公共施設マネジメント計画策定事業 569万円
- 循環バス運行事業 9,234万円
- デマンドタクシー事業 1,324万円

◆ 衛生費

〈前年度比6,448万円(4.1%)の減少〉

- 救急医療体制等整備事業 3,136万円
- 健康づくり推進事業 405万円
- 予防衛生事業 1億7,426万円
- 斎場整備事業 2,078万円
- ごみ処理事業(可燃・不燃) 5億2,166万円
- 資源リサイクル事業 9,542万円
- し尿処理事業 1億3,922万円

◆ その他

- 田んぼアート米づくり体験事業 1,500万円
- 農道及び農業用排水路整備事業 7,568万円
- 企業立地促進事業 1億1,667万円
- 起業家支援事業 990万円
- 中小企業振興事業(エコミックガーデニング) 1,168万円
- 産業団地整備事業 518万円
- 観光客誘致推進事業 3,000万円
- 消防車両整備事業 8,605万円



街なかにぎわい創出事業



JR行田駅前広場周辺再整備事業
(荻里山公園移転・整備工事)



健康づくり推進事業



消防車両整備事業

行田市の家計簿をお知らせします

平成29年度 決算報告

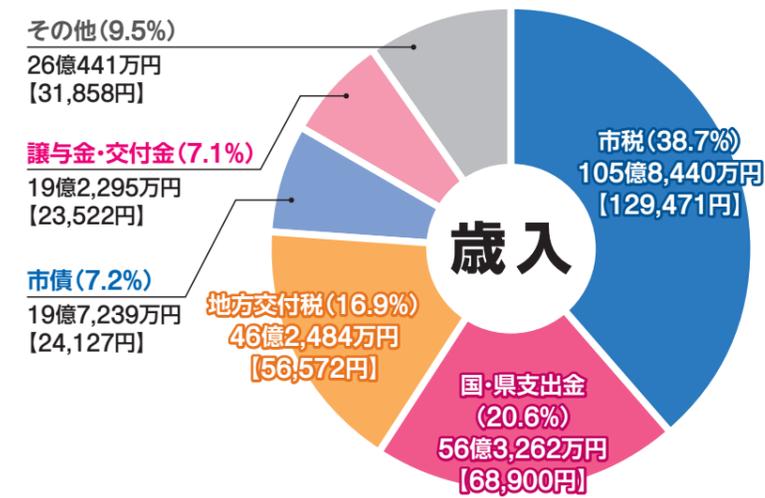
平成29年度の決算がまとまりました。

決算は、自治体の予算執行や財政運営を明らかにするもので、自治体の家計簿といえるものです。

市民の皆さんからいただいた大切な税金などの収入がどのくらいあって、どのように使われたのかをお知らせします。

一般会計

歳入総額 273億4,161万円【334,450円】 前年度比 7億3,856万円(2.6%)の減



市税

企業収益の増加による法人市民税の増や家屋の新増築の増加による固定資産税の増などにより、前年度比2億5,223万円の増となりました。

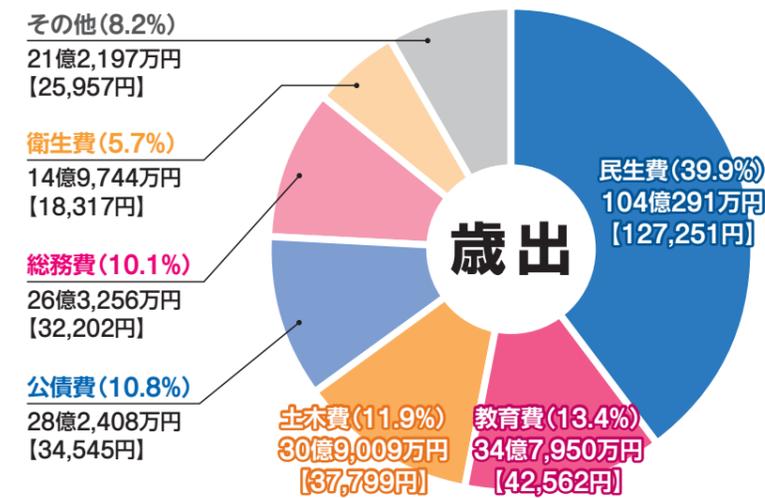
地方交付税

税収の伸びなどに伴う普通交付税の減少により、前年度比2億4,584万円の減となりました。

市債

忍・行田公民館整備事業などの建設事業債が減少したことにより、前年度比1億8,905万円の減となりました。

歳出総額 260億4,855万円【318,633円】 前年度比 7億3,619万円(2.7%)の減



民生費

国民健康保険事業費特別会計への繰出金、介護施設関係補助金、臨時福祉給付金などの減により、前年度比2億8,593万円の減となりました。

総務費

職員退職手当やごみ処理施設整備基金積立金などの減少により、前年度比5億4,786万円の減となりました。

衛生費

南河原地区簡易水道事業費特別会計廃止による繰出金の減などにより、前年度比6,448万円の減となりました。

※グラフの【 】の数値は、市民1人当たりの額です。
歳入から歳出を引いた12億9,306万円は平成30年度に繰り越しました。